

## 式辞

国立高等専門学校機構、鳥羽商船高等専門学校の専攻科に入学おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

本日、ここに海事システム学専攻に 5 名の進学者を迎え、令和三年度の入学式を挙げてまいりますことは、教職員ならびに在校生、同窓生一同にとり、大きな喜びであります。

先月までの五年半で人文・社会科学、数理科学に加えて、専門領域たる海事と船舶運航の技術を身につけた諸君には、今日から始まる海事システム学専攻の学修で、専門領域を深化し、先進の科学技術を学び、柔軟な思考力と応用力、国際的な視野とリーダーシップを備えた人間に成長して欲しい。

校祖近藤真琴の開学以来、百四十年間連綿と受け継がれてきた教育理念として、「進取・礼譲・質実剛健」の三つがありますが、専攻科では、とくに「進取」の精神、すなわち「みずから進んで新しい事をなす」を心がけていただきたいと思います。不断の努力を楽しんでください。

現在、地球規模の気候変動、環境対策や持続可能な社会の構築が叫ばれています。そこに必要とされるのは、先端技術とともに、倫理（エシックス）の再構築と言われています。我が国は、2020 年をめどとした人とモノ、情報を機械が融合するソサエティ5.0 (Society 5.0) から SDGs 持続可能な開発のための 2030 アジェンダのめざす社会構築に向かいます。ひとことといえば、オリンピックやパラリンピックも国威発揚が目的ではなく、世界の人達の絆、連携を深めることが大目的、もっと言うと世界の中には、豊かな国、まだまだ恵まれない人々で満たされている国、怠けているのではなく、社会のしくみがもたらす貧困など、さまざまですが、求められるのは、人間らしく、人の道に沿って結束し、行動する、富の再分配です。「誰ひとり取り残さない」、志にもとづいて培われる強さは優しさです。思いやりを共有しなければなりません。

諸賢にこの二年間で取り組んでほしいことがいくつかあります。

1 つ目は、英語力の向上に取り組んでいただきたい。

2 つ目は、自らの知識を深め広めるとともに、それらを組み合わせで新しいものを創り出す。

3つ目は、リーダーシップの発揮、本科生のリーダとして後輩をひっぱってほしい。  
日本は今なお技術大国でしょうか？それは一面では正しいかもしれませんが、しかし、売れる商品を開発するための技術、経済が優先され、一方では生命、環境、安全の技術開発は必ずしも優先されてこなかった歴史があります。現状をよく観てみてください。今こそ、考えるときです。3年で社会に実装、あるいは、完成しないといけなかった開発など、中途半端になって十分生かされなかった基礎的な研究の成果も多くあると思います。研究にも粘り、根性、不屈の精神は必要ですが、それに裏付けられた弛まぬ勉強が必須です。

本校は、5G・IoT、海洋DXの推進に取り組んでいきます。専攻・学科の枠を超えて、これまでも本科学生として付き合いはあったと思いますが、横のお付き合い、さらには各商船高専や高専、学校、大学、産業界との連携を広げてください。海事新聞などもおおいに参考になります。同時に、同窓生として、あとに続く本科の後輩、一足早く社会に出た先輩との絆をしっかりとって連携してほしい。

二年という期間は短いようで長い。先生方を打ち負かすようなアイデアと粘りで研究の成果を立派な論文として結実させ、さらには学会発表、できれば国際学会で発表されることを期待しています。まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響は続きそうですが、我々人類は、果敢に対処し、国際学会もオンラインで多くが開催されています。令和三年の学生会のスローガンのとおり、「挑戦」してください。准学士は**称号**です。こんどは、大学改革支援・学位授与機構から学士（商船学）の**学位**を取得して下さい。これからの二年間が有意義なものとなることを願い、式辞といたします。

令和三年十月一日      鳥羽商船高等専門学校長      和泉      充